



新しい消防団長・消防副団長を 紹介します

東海村消防団は、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき、住民有志により組織された村の消防機関です。消防団本部や本部付女性部、第1分団から第7分団までの7つの分団で構成されており、令和6年4月1日現在で181人の消防団員が活動しています。

このたび、3月31日付けで根本一成さんが消防団長の任期満了を迎えたため、門馬仁志さんが新たな消防団長に任命され、山田村長から辞令が交付されました。

また、海老原安智さんが新たな副団長に任命され、門馬団長、井坂和夫副団長、海老原副団長の本部3人を中心とした体制で、東海村の安全・安心のため消防団活動に尽力していきます。



【写真左から】井坂副団長、門馬団長、山田村長、根本前団長、海老原副団長



消防団の 役割

・災害防御活動

火災や自然災害が発生したときには、消火活動や水防活動など、災害の拡大防止に活躍しています。

・啓発活動

防災訓練や火災予防広報活動、地域行事における警戒など、地域に密着した活動を幅広く行っています。

【問い合わせ】防災原子力安全課消防防災・原子力安全担当（☎282-1711 内線1522）



特定外来生物「オオキンケイギク」の 駆除にご協力ください

「オオキンケイギク」は北米原産の多年草で、5月から7月にかけて、コスモスに似た黄色の花を咲かせます。よく生育することから、かつては道路の法面緑化に使用されていました。

しかし、あまりに繁殖力が強く、いったん定着してしまうと在来の野草の生育場所を奪い、周囲の環境を一変させてしまう恐れがあるため、現在は「特定外来生物」に指定されており、生きたままの運搬や栽培、譲渡などが禁止されています。

5月から7月にかけては黄色の花が咲くため、オオキンケイギクを見つけやすい時期です。村内でも生息範囲が広がってきていますので、ご自宅の敷地内や所有地内で見掛けた場合は、駆除をお願いします。

【オオキンケイギクの特徴】



花びら



葉



つぼみ

【駆除のポイント】

- できるだけ根ごと引き抜く
- できるだけ種ができる前に駆除する
- 引き抜いたらすぐごみ袋に入れる
- 作業時は交通事故やけが、熱中症に注意する
- 継続的に駆除する

【処分方法】

引き抜いたオオキンケイギクを袋に入れて密封し、2日～3日その場で天日にさらして枯らします。



枯れたら、燃えるごみとして回収に出すか、処分場（ひたちなか・東海クリーンセンター）に持ち込んで処分します。

※50キログラム以上の場合、処理手数料がかかります。



駆除や処分方法など詳細は、茨城県生物多様性センターのリーフレット（右の二次元コードからアクセス可）でも紹介しています。

【問い合わせ】環境政策課環境計画・緑化推進担当（☎282-1711 内線1454）